

令和2年度生活支援体制整備事業生活支援コーディネート業務の実績報告

1. 活動実績（4月～2月の実績）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
地域・団体との関わり件数 （集いの場に出向き、実態把握を行った件数）	100件 （月平均9.1件）	86件 （月平均7.8件）	16件 （月平均1.5件）
ヒアリング件数 （地域住民や関係機関等から情報収集を行った件数）	885件 （月平均80.5件）	876件 （月平均79.6件）	481件 （月平均43.7件）
協議体開催回数 （地域課題についての協議の場を開催した回数）	26回 （月平均2.4回）	20回 （月平均1.8回）	5回 （月平均0.5件）
きよす家事サポーター養成講座	開催回数3回 参加人数61名 家事サポーター登録希望8名	開催回数：2回 参加人数：33名 家事サポーター登録希望13名	DVD視聴による開催 参加人数3名 家事サポーター登録希望0名

ヒアリング対象の割合（4月～2月）

	地域住民	民生委員	医療機関	ケアマネジャー	サービス事業者	包括支援センター	社協	行政	企業	その他 学校・他市 社協など
H30年度 （%）	42.7	1.1	0.4	1.1	6.5	24.0	14.6	1.0	6.1	2.5
R元年度 （%）	53.6	1.7	2.5	2.6	6.1	11.0	11.5	1.5	4.5	5.1
R2年度 （%）	49.3	1.7	1.4	2.9	2.1	6.3	17.6	0.6	14.6	3.4

2. 今年度の成果

①相談業務

- ・社協が新規で立ち上げたフードドライブ事業等を通じて、企業からの地域活動への相談件数、地域活動へのコーディネート件数が増加した。
- ・西枇杷島地区で協議体を開催し、地域活動の状況や課題を把握した。

②社会資源の開発、調査活動

- ・企業向けの社会貢献啓発チラシと社協との連携に関するアンケートを市内法人413社に送付、企業への社会貢献のアプローチを行い、6社から連携希望との回答あり。企業の社会貢献のメニュー提案と実施に向けてのコーディネートを行った。
- ・社協登録ボランティアに福祉出前講座の講師としての協力依頼を行い、10団体から協力可との回答

を得る。

- ・ 65 歳以上の高齢者を対象に買い物ニーズ調査を実施し、高齢者の買い物における課題の把握を行い報告書を作成した。
- ・ ボランティア団体、サロン団体、寿会に対して集いの場調査を実施、45 団体の情報を収集し一覧表を作成した。
- ・ 社協フードドライブと連携することにより、親子対象に住民主体で実施していた子ども食堂、フードパントリーの対象者を高齢者まで拡大することができた。
- ・ 視覚障害をもつ高齢者の生活ニーズの把握と集いの場立ち上げ支援を行い、視覚障害者の集いの場を開催するボランティアグループを立ち上げた。

### ③家事サポーターの養成

- ・ 講義 DVD を作成、DVD 視聴による養成講座を開催し、これまで養成講座の受講に至らなかった市民の参加を促すことができた。

### ④新型コロナウイルス感染症拡大下での取り組み

- ・ 「おうち de ボラ in 清須」を立ち上げ、手作りマスクの募集やフードドライブにおける食品募集、SNS を通じてのボランティアによる体操動画、演奏動画発信等、自宅にいてもできる介護予防と社会参加の機会を創出した。
- ・ 社協が立ち上げたフードドライブ事業の食品配布を活用し、地域から孤立している独居高齢者や外国人等のニーズ把握を行い、地域包括支援センターやアパート大家、国際交流協会等と新たな支援ネットワーク構築を行った。
- ・ 屋外でのギフト配布による見守り活動やウォーキングサロン、手紙による交流等、感染対策を取りながら続けられる地域活動を提案し、コロナ下での地域活動推進を行った。

## 3. 課題及び令和 3 年度の事業計画

課題①地域住民、支援者ともに、地域情報を容易に入手できる環境整備が必要である。

- ・ ボランティアセンター、寿会、ブロック社協関係者等と連携し、地域の集いの場の情報を継続的に収集しマップ、地域アセスメントシートを更新する。

課題②高齢化等の理由で生活支援の担い手が減少する中、新たな担い手の獲得と支え合いシステムの構築が必要である。

- ・ 生活支援体制整備事業や協議体について市民に周知し、協議体参加メンバーを募るための講演会を開催する。(愛知県生活支援体制整備推進に係る助言者派遣を活用)
- ・ ボランティアや企業と連携して福祉講座やサロン等の集いの場を創出する。

課題③地域活動が少ない西枇杷島地域において、地域情報の把握とネットワーク構築が必要である。

- ・ 西枇杷島地区で協議体を定期開催し、地域情報の共有と連携強化により助け合いを創出する地域基盤を作る。

課題④新型コロナ下で停滞した地域活動を再度推進する仕組み作りが必要である。

- ・ コロナ禍での地域活動の情報収集を行い、活動を継続するための支援やメニュー提案を行う。